

特集：矢作川上中流域の河畔林

資料

矢作川上中流域の河畔林 特集にあたって

Riparian forest in upper and middle reach of the Yahagi River - preface

洲崎燈子

Toko SUZAKI

河畔の植物群落は護岸や水質浄化といった機能を持つとともに（佐々木・浜端，1996），野生動物の生息空間（星野，1996），地域の景観資源（島谷，1996）と位置付けられてきた。河畔林は中・下流域の幅の広い河川の氾濫原に分布している林と定義されており（崎尾，2002），河川改修や河辺の植生改変などによって全国的に少なくなっているが，矢作川には自然護岸の区間が多いため比較的よく残されており，保全と適切な管理を進める必要がある。

当研究所では1995～1999年度にかけて矢作川中流域（豊田の中心市街地，河口から37～45kmの範囲）の河畔で植物と昆虫，鳥類，哺乳類の生息調査を行い，生物生息空間としての質を高める整備や管理についての提言を行った（内容については2001年に出版された矢作川研究No.5「特集 中流域の河辺環境」を参照されたい）。その後，2005年に豊田市が上流の6町村を合併したことを受け，新市域の矢作川の河川環境の保全と改善に役立ち，環境に配慮した整備提案につながるデータを蓄積することをめざし，2006～2007年度にかけて上中流域（河口から48～69kmの範囲）の矢作川の河畔林で陸生生物と地域社会の調査（河畔林整備基礎調査）を行った（矢

作川は河口から79kmの矢作ダムより上流でも川幅が広く，川沿いの林は河畔林と定義した）。この調査では図1に示した通り，生息する野生生物と人の営みの二つの側面から河辺環境をとらえることを試み，生物相（植物，昆虫，鳥類，両生類，爬虫類，哺乳類，貝類，甲殻類）と沿川集落の川や土地の利用状況を把握した。調査地は新市域の矢作川に特徴的な自然植生と，広い面積を占める竹林（マダケ林・モウソウチク林）を含む11地点に設置した。図2に調査地の位置を，表1に各調査地の概要および調査項目を示した。表1に示したように調査地①～⑤では生物調査の全項目で，調査地(6)～(11)では任意の項目で調査が行われた。また，項目によっては範囲を拡大して調査が行われた。詳細については各報告を参照されたい。

「矢作川研究」本号では特集を組んでこの河畔林整備基礎調査の成果を紹介する。2年間と短い調査期間であったにも関わらず，今回の調査では稀少種を含む多くの生物種が確認され，また川と沿川住民の暮らしの深いつながりを確認することができた。この成果を踏まえ，新市域の矢作川において，自然特性と人為的利用の特性の双方を生かした河辺環境づくりを提案していきたい。

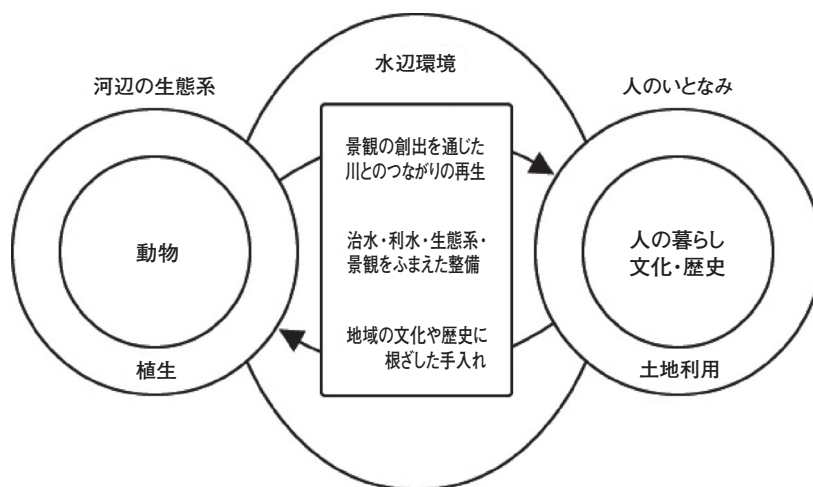


図1 河畔林整備基礎調査のアウトライン。



図2 調査地の位置。

表1 各調査地の概要。

調査地	河口からの距離 (km)	主な植生	付随する植生	備考	調査項目
① 小渡町小柳 (旭地区)	69.2	左岸 ケヤキ林	モウソウチク林, ツルヨシ草地	ケヤキの大径木の林	植物, 動物 (全項目), 人文
② 樽俣町樽俣川合流点付近 (小原地区)	66.8	右岸 アベマキ・ハリエンジュ低木林	マダケ林, アベマキ林, スギ林	河川敷の川側に低木をまじえた草地, 陸地側に竹林, スギ林, アベマキ林が見られる	植物, 動物 (全項目), 人文
③ 百月町百月発電所上 (小原地区)	59.8	右岸 モウソウチク林			植物, 動物 (全項目), 人文
④ 西広瀬町西前地内 (猿投地区)	50.7	右岸 ケヤキ林+マダケ林		エノキやヤナギなど広葉樹の大木が竹林内に混交。地元の水辺愛護会による河畔林整備が行われている	植物, 動物 (全項目), 人文
⑤ 東広瀬町ラゴソ地内 (石野地区)	50.2	左岸 ツルヨシ草地	マダケ林	通称「大曲がり」, 河川敷の川側に草地, 陸地側に竹林が発達	植物, 動物 (全項目), 人文
(6) 小渡町串毛 (旭地区内)	73.0	左岸 モウソウチク林		広面積の竹林	昆虫
(7) 有間町 (旭地区内)	68.0	左岸 アベマキ林	ヒノキ林, 草地	アベマキの大径木の林	植物, 昆虫 (トンボ)
(8) 築平町 (小原地区内)	62.0	右岸 メダケ群落	草地		植物, 昆虫 (トンボ), 人文
(9) 月原町 (足助地区内)	59.8	左岸 ハシバミ林			植物
(10) 大河原町 (足助地区内)	54.0	左岸 マダケ林			植物, 鳥類
(11) 御船町 (猿投地区内)	47.7	右岸 シデコブシ林			植物

調査地点のうち①から⑤では生物調査の全項目で調査が実施され、(6)～(11)では任意の項目で必要で調査が実施された。

引用文献

星野義延 (1996) 生態系の保持機能. 河川環境と水辺植物, 奥田重俊・佐々木 寧 (編):183-186. ソフトサイエンス社, 東京.
 崎尾 均 (2002) 水辺林とはなにか. 水辺林の生態学, 崎尾 均・山本福壽 (編):1-20. 東京大学出版会, 東京.
 佐々木 寧・浜畑悦治 (1996) 機能としての河辺植物. 河川環

境と水辺植物, 奥田重俊・佐々木 寧 (編): 166-182. ソフトサイエンス社, 東京.
 島谷幸宏 (1996) 生物と景観. 河川風景デザイン, 島谷幸宏 (編): 128-149. 山海堂, 東京.

〔豊田市矢作川研究所:
 〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F〕